

## イタリア家族史研究の現状と課題

早田 由美子

### はじめに

本稿は、イタリアにおける家族史研究の現状と課題を、Barbagli M., Kertzer D. I. (a cura di), *Storia della famiglia italiana 1750-1950*, Bologna, 1992. をもとに整理して紹介するものである。この分野におけるイタリア研究は他国に遅れていたが、八〇年代以降に目覚ましい成果をあげ、これまでのヨーロッパ家族史の定説の誤りを指摘したり、部分的変更、あるいは枠組み自体の組み替えを迫るほどの影響力をもつに至っている。イタリア家族史の潮流とその成果を欧米の社会史・家族史研究との関わりの中で整理し、紹介することによって、これまでの学説の有効性と限界が明らかになるとともに、今後の研究の展望を与えることになると考える。

### 一、イタリアにおける家族史

イタリアにおける家族史研究は、ヨーロッパで六〇年代初めに起きた歴史理論上の根本的な変化とそれに伴って爆発的に起こった家族史研究に影響を受ける形で発展した。万人の歴史を目標とする<sup>(1)</sup>とした新しい歴史学は、経済学、人口統計学、社会学、人類学の諸理論を援用し、<sup>(2)</sup>個人々の生活を歴史上の大きな変化と関連づけながら、<sup>(3)</sup>大衆の日常行動を一般化しようとした。大衆の日常行動はほとんどが家の壁の内側で家族との関わりの中で繰り広げられるため、家族史研究への関心が強まっていったのである。

このような流れの中で、六〇年代の半ばにイタリアでも新しい研究動向が生まれた。ただし、それ以前にも、全く研究がなかったわけではない。ごく例外的な歴史家による研究や人口統計学者<sup>(4)</sup> Livini (1915)<sup>(5)</sup> による家族構成に関する地域と時期の多様性に関する

る研究の他、法制史家による諸研究が大きな貢献をした。(一五)一六世紀イタリアの家族関係に関する「Amassia」の著作(1911)をはじめとして、婚礼や嫁資、夫婦の財産関係に関する重要な研究が二〇世紀初頭から積み重ねられ、近年には、イタリア家族史の優れた総括も出されている。(8)法制史家による研究は、「Amassia」の提言に従って、法律だけではなく「家族の年代誌や回想録、芸術作品、法制上・思想上・宗教上の豊富な文献」に目配りして大きな成果を上げているが、Saraceno (1992) (9)らが検討した他は、この二五年間あまり顧みられていないのが現状である。

この二五年間におけるイタリア家族史研究の再興には、大きく分けて以下の五つの研究グループが貢献した。①六〇年代の半ばから発展した歴史人口学のグループ。(10)新旧のテーマ―社会階層と産児制限や子供数の関係、結婚年齢と既婚率の変化、再婚の地域差と時代差など―に関して、人口統計学的な分析をするとともに、過去の家族生活の様々な面に関しても光を当てた。七〇年代の半ばからは、家族構造の研究や結婚後の居住規制に関する地域差・時代差・階層差の研究が行なわれた。(13)家族史研究のための重要史料(財産台帳、土地台帳、収税記録、結婚・誕生・死に関する台帳など)の批判的分析に関しても、歴史人口学者や経済史家や社会史家が貢献をした。(14)これらは、一九七七年創立のイタリア歴史人口学協会を前身とするイタリア歴史人口学会によって促進された。この学会は人口動態に関する諸会議を主催した他、家族史に関する二つの国際会議(一九八三年トリエステ、一九八七年、バル

セロナ)の開催に寄与した。(16)②外国(米・仏・独)の歴史家と人類学者。ルネサンス期のフィレンツェやトスカーナに関する研究が中心だが、一五世紀から一九世紀のナポリ王国や一八、九世紀のミラノを扱ったものもある。人類学者たちは、一八、九世紀の共同体に関する調査を進めた。(20)これらの研究者は、人口動態上の変数(結婚年齢、出生率、死亡率)や家族構造だけではなく、婚礼や家族関係、夫婦の財産関係や親戚関係にも注目した。③女性の歴史家。嫁資と名譽、未婚女性と未亡人の状況、召使、夫婦・親子間の家族関係などをテーマにした重要な研究を数多く行った。(21)④『歴史研究』(Quaderni storici)に集った経済史と社会史の小组グループ。農民家族と都市家族に関する研究の他、この学術誌を通して家族史の研究と論争を刺激し、促進した。⑤社会学者。欧米で刊行された重要な作品や論争をイタリアで紹介するとともに、独自の研究を行った。(24)

このように、イタリア家族史研究の再興を推進したのは、イタリアの正統派の歴史家ではなく、他の学問分野の研究者(人口統計学者、人類学者、社会学者)であった。また、歴史家ならば、他国の歴史家であるか、または、イタリアで周辺の地位にいる研究者(社会史家または女性の歴史家)であった。

## 二、近年のヨーロッパおよびイタリア家族史

Barbieri と Kertzer は、欧米におけるここ二〇年の研究と論争の成果を踏まえて、次の四点に関してイタリア家族史研究を位置付けている。すなわち、(1)出生率の減少(2)家族構造(3)家族の形成と崩壊(4)親族関係である。

### (1) 出生率の減少

出生率の急激な減少はヨーロッパの大部分の地域で一八七〇年ころ始まり、<sup>(25)</sup>多産多死から少産少死へと移行した。その説明として提起された人口動態変化に関する理論によると、出生率の減少は人口学的力と経済的力の結合によって生じた。幼児死亡率の減少により子どもの需要が減少するとともに、都市化と産業化により生産の単位としての家庭が危機に陥り、個人主義が進み、家庭外の仕事により女性が子どもを生み育てることが困難なものになった<sup>(26)</sup>という。

六〇年代の終わり頃、この理論を実証するためにプリンストン大学の Coale の研究グループが一連の研究を始め、Livi-Bacci もポルトガルとイタリアに関する研究で貢献した。<sup>(27)</sup>しかし、ヨーロッパの七〇〇以上の地域に関するデータによってもこの理論の有効性は確かめられなかった。ある国では出生率の低下は死亡率の低下に先んじ、他の国では(例えばブルガリア)、産業化と都市

化の開始や初等教育の発展以前に出生率の低下が始まった<sup>(25)</sup>。また、産業化と都市化の発展レベルが同じでも、出生率の低下開始時期は必ずしも同じではな<sup>(28)</sup>。一方、Knodel と van de Walle (1987) は経済レベルは異なるが同種の文化をもつ地域では変化は同時期に始まると指摘する。このようなことから、人口動態上の変化、特に、再生産行動に関する意識変化を解釈する際、イデオロギー的要因と文化的要因が再び注目されるようになった<sup>(28)</sup>。

近年、出生率減少に関する諸理論を実証するために、個人レベルのデータがいつそう注目されるようになった。Coale らが利用した地域レベルの情報<sup>(29)</sup>は、重要な偏差を隠すことがあるからである。例えば、Kertzer と Hogan と Marcolin (1991) は、一八六一年から一九二二年のカサレッキオに関して社会階層間の重要な相違を発見した。小作人は他の階層が産児制限を始めた数十年後も高い出生率を維持していたのである。Schneider (1981) もシチリアの一地域に関して職人と貧農間の相違を指摘した。これらは<sup>(30)</sup>経済学の新しい類型化の基礎データとして利用されている。

### (2) 家族構造

家族構造はヨーロッパ家族史研究の論争点の一つである。その中には未婚女性と未亡人が生活した家庭に関する研究などもある<sup>(31)</sup>が、中心的な論点は複合家族、すなわち、多核家族(二組以上の夫婦からなる)と拡大家族(一組の夫婦と一人以上の同居の親族から構成される)の意義に関するものである。それは Livi-Bacci と

その共同研究者の研究による影響が大きい。Laster は二〇年前、イギリスに関する広範な研究成果を基に、過去のヨーロッパの農民は複合家族が主流であったという考えは神話に過ぎず、核家族化が産業化によってたらされたと考えられるのも誤りであると指摘した。その後、様々な国で行われた多様な研究によって、家族構造は Laster が考えるよりもずっと大きな地域差があったことが示された。そこで、彼は最初の立場を修正し、「北欧」、「中欧」、「地中海」、「東欧」に地域区分して、前二地域では核家族が、後の二地域では多核家族や大家族が主流であると示した。<sup>(33)</sup>

イタリアの事例はこのような一般化を確認する上でも、家族構造の地域的・时期的相違を説明する理論を発展させる上でも重要である。中北伊の多くの地域、とりわけ折半小作制度の地域、より正確には農地分割が重大事であった地域では、数世紀に渡り複合家族が主流であり、一八、九世紀においても、人口の大部分が二組以上の夫婦からなる家族で生活していた。<sup>(34)</sup> また、別の地域でも経済的要因から多核家族が形成されていた。<sup>(35)</sup> しかし、イタリアの全地域で複合家族が主流であったわけではなく、Da Molin<sup>(36)</sup> (1992) によれば南伊では核家族が主流であった。

興味深いことに、イタリアと同様イベリア半島でも南部で核家族が、北部で複合家族が多かった。Lison-Tolosana (1977)<sup>(37)</sup> によれば、ポルトガル南部、ガリツィアやアストゥリエなどのスペイン北西部、バスク、アラゴン、カタロニア地方では、父系的直系家族が主流であった。その後の研究はこの正当性を追認した。<sup>(38)</sup> 北

部では、相続人を一人の息子に限定する非分割の父系的相続制度があったことから、父系的直系家族が導かれた。それに対して南部では、すべての子（少なくとも息子）が相続権を有する遺産分割制度があり、それが核家族の形成を促進した。これは南部における大土地所有と土地のない多くの肉体労働者の存在でも説明できるといえる。<sup>(39)</sup>

フランスでも地域差があった。北仏では、分割相続、結婚後の別居、核家族が多かった。それに対し、南仏では、遺産相続は父系的かつ非分割であり、複合家族や多様な形態の直系家族が存在していた。<sup>(40)</sup> 中仏の折半小作地域では、イタリアの折半小作地域と同様、多くの結合家族や水平的多核家族がいた。息子たちは結婚後実家に妻を連れて来たため、家族数は直系家族より多くなった。<sup>(41)</sup> 中部イタリアで多かった多核家族は、東欧の多核家族としばしば比較されて来た。Czap (1976, 1982, 1983)<sup>(42)</sup> によれば、一八世紀末から一九世紀初めにおいてロシアの農奴の多くが地主の圧力を主たる要因として多核家族を形成した。イタリアの小作人と同様、結婚後は親と同居したが、ずっと早婚であった。Czap はこれを東欧家族の典型としたが、実際にはここでも地域差があった。Pakans (1983)<sup>(43)</sup> によれば、多核家族の重要性は同じ地域でも共同体により異なっていた。Pali (1983)<sup>(44)</sup> によれば、エストニア南部には大産族が、北部では核家族が多かった。Andorka と共同研究者 (1983, 1986)<sup>(45)</sup> によれば、産業化以前のハンガリーでは、複合家族は農奴に典型的、核家族は農業労働者の特徴であった。こ

これらの史料とイタリヤの研究は、実際は Laslett の地域区分よりも変化に富み複雑な状況であったことを明らかにするとともに、さらに新しい枠組みの探求を迫るものとなっている。

### (3) 家族の形成と崩壊

通説では、アンシャンレジームのヨーロッパでは、家族は婚姻を通してのみ成立し、婚姻関係を解消するのは配偶者の死だけであったと考えられている。しかし実際は、家族の形成と解消は他の形態でも行われていた。イギリスをはじめとする国々では、少なくとも最貧層においては、内縁の状況や事実上の共同生活がしばしば婚姻に先んじていた。<sup>(46)</sup> また、離婚が許されていないか非常に難しい国でも、夫婦関係の解消が法制外の形で事実上行われていた。<sup>(47)</sup> イタリヤにおける研究は、この点に関しては手薄だが、家族形成の別の側面、すなわち、結婚年齢と結婚後の居住規制と奉公制度との関係に関して重要な貢献をした。

Hainal (1965, 1983) と Laslett (1983) <sup>(33)</sup> は、前産業社会における二つの家族形成システムを指摘した。第一の形態は、北西ヨーロッパの国々(スカンジナビア諸国、大ブリテン諸国、ネーデルラント地方、北仏、独語圏の国々)に典型で、三つの規則に基づいていた。①男女とも晩婚であり(男二六歳以後、女二三歳以後)、非婚率も高い(約一〇—一五パーセント)。②結婚後親と別居し、核家族を形成した。③結婚前に他家で数年奉公する割合が高い。第二の形態は、これ以外の国々(イタリヤ、イベリヤ半

島の国々やアジア諸国)に典型的であり、全く異なる三つの規則に基づいていた。①男女とも、特に女性はかなり早婚だった。②結婚後夫の親の家に同居した。③結婚前に他家で数年奉公する習慣はない。三つの規則は密接に結び付き、結婚後親と別居する社会では、男女は新所帯用の必要資金を奉公によって準備し、晩婚になった。一方、親との同居が一般的な場合は、奉公に行かずに早く結婚できたとされている。

この解釈上の枠組みは、北西ヨーロッパ諸国に関しては有効であるが、南の国々に関しては必ずしも適当ではない。例えば、イベリヤ半島では、結婚後親との別居が主流の地域のほうが、親との同居の多い地域の人々よりも早婚であった。<sup>(49)</sup> また、イタリヤに関しては、Hainal によって想定された二つの家族形成システムの他にさらに二つのシステムが存在した。一八、九世紀のサルデーニャは晩婚、結婚前の奉公、別居を特徴とする第一の形態が支配的であった。<sup>(50)</sup> 一五世紀のトスカナ地方の農村は第二の形態の好例であり、奉公せず、早婚(女性は一七—一八歳、男性は二四歳)で結婚後同居し、多核家族を形成した。付け加えるべき第三の形態は、プーリアとシチリアで数世紀に渡って見られ、南部の全地域においても散見された。この地域の農家では、奉公せず、女性は早婚であった(二〇歳以前)が、結婚後は親と別居した。<sup>(51)</sup> 第四の形態は、一八、九世紀における典型的な折半小作制度の地域(トスカナ、<sup>(52)</sup> エミリア、マルケ、ウンブリア)で見られた。奉公の習慣があり、女性が晩婚であった(二四—五歳)が、水平

的多核家族の形が一般的であった。<sup>(51)</sup>

イタリア研究の成果は、より優れた解釈上の枠組みを作る上でも、他国の事例をより良く理解する上でも役に立つ。サルデーニャや北欧の諸地域では、親との別居が男女の晩婚化とセットになっていたのに、イベリア半島やシチリアやプーリアでこれが証明されなかった理由として、女性の経済上の役割の相違が指摘されている。サルデーニャやイギリスのように、性役割の相違が小さく、女性も新所帯用の資金を捻出する責任を負っていた所では、女性の晩婚化がもたらされた。それに対して、南伊やイベリア半島のように性役割の相違が大きく、女性がこのような役割をもっていない場合は、別居という規制は女性の晩婚化を引き起こさなかったのである。

#### (4) 親族関係

Levi<sup>(54)</sup>が指摘するように、この二五年間のイタリアにおける家族史研究は主に人口動態上の変数（結婚年齢や出産率）や家族構造や家族の成員間の関係の研究が中心であり、親族関係、すなわち、血のつながりや愛情はあるが生活は共にしない人々の関係に関する研究は少ない。これは親族関係の研究史料は取り扱いが難しいものが多いということにも起因している。しかし、それはイタリアの歴史学だけの問題ではない。Stoneの研究<sup>(55)</sup>のようには他の国々で発表された研究は、親族関係のある程度重視して

関係との間に明確な境界線を引くことによって生まれたという結論に達している。また、Stoneをはじめとする英仏の研究は、上層の人々を対象にするのみで下層の人々に関する親族関係は全く明らかになっていない。

このテーマに関連したイタリアでの興味深い成果の一つは、父系・母系の重要性の地域差に関するものである。それによれば、折半小作制度の地域では父系的つながりが主流であるのに対し、南伊やサルデーニャでは母系的つながりが重要である。Levi<sup>(56)</sup>が指摘しているように、この地域差は土地の相続条件によって生み出されたと考えられるが、社会学的研究によれば、この地域差は今日の生活にまで名残をとどめている。

西欧諸国では、夫婦双方の親戚関係を重視することが指摘されてきた。しかしながら、社会学的研究によれば実際には母系的傾向が強い。そして、米英その他で目立つ母系的傾向は、産業化や都市化の過程で復活したとされている。Swanson<sup>(58)</sup>が指摘したように、「男性の跡取りとしての役割が継承されているところでは、核家族と夫の親族とのつながりが強く、それ以外のところでは妻の家族とのつながりが強い。」前者の状況は、産業化以前に関して証明される。当時家族は生産に関する経済的単位であり、息子は農園や商店、農業労働や手工業を父から受け継いだ。産業化は経済活動における父から息子への継承の系譜を断ち切り、父系的つながりを弱めたが、家庭経営は産業化後も女性の仕事であり続けたため、母系的つながりがいっそう重要になったという。

しかし、イタリアで行われた歴史研究と社会学研究によって、産業化したすべての社会に母系的傾向があるわけではないという事実が示され、産業化が父系から母系への移行を促したという理論の有効性に疑いが生じることになった (Barbagli 1991)<sup>(59)</sup>。例えば、社会学研究によって、エミリア・ロマーニャとヴェネトという二つの産業化した地域で今日なお父系的傾向があることが示されているし、歴史研究によって、産業化以前の一八、九世紀のサルデーニャや南伊の諸地域で、親族関係は共系的または母系的であったことが明らかにされている。

イギリスや他の国々で行われた研究 (Wrightson 1981)<sup>(60)</sup>によれば、上層階層で父系的傾向であっても、その他の人々の間では共系的なシステムが強かった。これらのことから、産業化が父系制から母系制への移行を促進したという命題は適切ではない。産業化以前にも親族関係は本質的には父系的でなかったとする根拠は不完全ながら十分あり、イギリスや北仏のある階層では、アメリカと同様、父系から母系への移行は全くなかったという仮説を立てることができるのである。

### 三、考慮すべきいくつかの点

六〇年代に発見と興奮の中で行われた家族史の新たな一般化は、研究が進むにつれ、見直され一部修正された。BarbagliとKertzerはさらに優れた理論的枠組みを提起するために次の点を考慮する

必要性を指摘している。

#### ライフサイクルの有効性

ライフサイクルの視点の導入によるメリットは以下のとおりである。まず、歴史上の大変化和個人々の生活に起きた変化の間にある関係性について考えを及ぼせる。また、Berkner (1972, 1976) が指摘したように、家族構成の研究の基礎となるセンサスは、すべての人が同じ方法で家族形成したかのような状況を示すことがあるが、実はライフサイクルの様々な時期にある様々な人々を捉えたものであるということに気付かせてくれる。また、家族のライフサイクルに一時期だけ参加する人々(直系家族)における跡取り以外の子どもなど)にも目を向けさせてくれる。さらに、初期の生活経験と後の生活経験との間の関係(孤児の経験と結婚、配偶者の死と移住の関係など)に関する研究も促進される<sup>(62)</sup>。

#### 人口学的な力

家族生活は人口学的要因によって左右される。ただし、これが決定要因であるかという点では論議が分かれる。社会学者 Levy (1965)<sup>(63)</sup>は、高い死亡率の下では三世代が一時期でも一緒に生活ができることは少なく、大多数の人々は生涯の大部分を核家族で暮らしたという。また、Ruggles (1987)<sup>(64)</sup>も、「産業化以前の時期に拡大家族はほとんど見られなかった」と主張した。彼らの理論の基本にある家族モデルは三世代直系家族であるが、ヨーロッパ各地とイタリアの諸地域には、息子がそれぞれ妻を家に連れて来ることを期待する規範があってそれが多核家族を形成したため、

両親が死んでも核家族にはならないことも多かった。このようなことから、人口学的要因だけでなく、以下の文化的規範や経済的要因も考慮にいれる必要があるという。

### 文化の役割

家族生活は、文化的規範（結婚適齢期、結婚後の居住規制、出産抑制の方法、新生児遺棄などに関する規範）にも影響を受ける。しかし、行動様式の相違は必ずしも文化的規範の相違によっているのではない。例えば、ポルトガルの一共同体で单身女性が多いのは、結婚願望の相違によるというよりも、男性の大量移住と関係がある<sup>(66)</sup>。また、家庭維持に十分な土地を所有したとき結婚できるとする規範がある社会では、結婚年齢は文化的規範と経済的力との相互関係によって決定される。ヨーロッパ女性の晩婚に関しては、結婚後の別居という居住規制に伴う経済的自立の必要性によると通常説明されてきた。この理論に従えば、給与労働の出現によって若者は親への経済的依存から解放され、結婚の低年齢化が促されることになる<sup>(67)</sup>。しかし、Knodel (1988)<sup>(68)</sup>や Kertzer と Logan (1991)<sup>(69)</sup>によれば、プロレタリアの誕生などの経済上の変化は結婚年齢にはほとんど影響を与えていない。これは、結婚年齢の決定には経済的力よりも文化的規範の方が影響力をもっていたことを示している。また、イタリアのエミリアやトスカーナやウンブリアやマルケ地方において、折半小作人は多核家族が多く、肉体労働者は核家族が多かったのは、経済的要因によって説明されるが、複合家族がイギリスの労働者よりもこの地域の労働者

に多いという事実は、文化的要因に起因していると考えられる。この文化的相違は長い時間をかけて経済的要因によって生み出されたものであるが、いったん形成されると急速には変化しない性質をもち。

Barbagli, V. Kertzer (ed.) 1987. *Handbook of Family History*.

### 註

- (1) Laslett P., *The Character of Familial History, its Limitation and the Conditions for its Proper Pursuit*, in 《Journal of Family History》, 1987.
- (2) Stone, L., *Family History in the 1980's*, in 《Journal of Interdisciplinary History》, 1981.
- (3) Tilly C., *Family History, Social History and Social Change*, in 《Journal of Family History》, 1987.
- (4) Berengo M., *Nobili e mercanti nella Lucca del Cinquecento*, Torino, 1965.
- (5) Livi L., *La composizione delle famiglie*, Firenze, 1915.
- (6) Tamassia N., *La famiglia italiana nei secoli diciannovesimo e diciannovesimo*, Milano-Parma-Napoli, 1911.
- (7) Brandileone, F., *Saggi sulla storia della celebrazione del matrimonio in Italia*, Bologna, 1906./Bellomo M., *Ricerche sui rapporti patrimoniali tra coniugi*, Milano, 1961./Marongiu A., *Boni parentali e acquisiti nella storia*

- del diritto italiano, Bologna, 1937. *Matrimonio e famiglia nell'Italia meridionale* (secc. VII-XIII), Bari, 1976. *Matrimonio medievale e matrimonio postmedievale*, in «Rivista di storia del diritto italiano», 1984./Roberti M., *Per la storia dei rapporti patrimoniali fra coniugi in Sardegna*, in «Archivio storico sardo», 1908.
- (∞) Vismara G., *Il diritto di famiglia in Italia dalle ri-forme ai codici*, Milano, 1978./Ungari P., *Il diritto di famiglia in Italia*, Bologna, 1970.
- (∞) Saraceno G., *Le donne nella famiglia*, in *Storia della famiglia italiana 1750-1950*, a cura di M. Barbagli e D. I. Kertzer, Bologna, 1992.
- (∞) Livi Bacci M., *Una disciplina in rapido sviluppo*, in *Demografia storica*, a cura di E. Sori, Bologna, 1975.
- (∞) Balietini A., *La popolazione delle campagne bolognesi alla metà del secolo XIX*, Bologna, 1971./Corsini C., *Ricerche di demografia storica nel territorio di Firenze*, in *Demografia storica*, cit., (¶10). *Why is Remarriage a Male Affair?*, in *Marriage and Remarriage in Populations of the Past*, a cura di J. Dupaquier e altri, London, 1981./Lichfield B-R., *Caratteristiche demografiche delle famiglie patriarcali fiorentine dal sedicesimo al diciannovesimo secolo*, in *Saggi di demografia storica*, Firenze, 1969./Livi Bacci M., *A History of Italian Fertility during the Last Two Centuries*, Princeton, 1977. *Una comunità israelitica in un ambiente rurale*, in *Studi in memoria di F. Melis*, vol. V, Roma, 1978./Schiavino A., *Il declino della fecondità in ambiente urbano: Reggio Emilia fra Otto e Novecento*, Bologna, 1979./Soliani e altri, *Una ricostruzione delle famiglie stabili dell'Alta Val Parma*, in «Ateneo Parmense», Acta Nat., 13, 1977./Zanetti D., *La demografia Patriziato Milanese nei secoli XVII, XVIII, XIX*, in «Annales Cisalpinæ d'Historie Sociale», Serie II, n. 2, Pavia, 1972.
- (∞) Anelli A., *Analisi della fecondità per strutture familiari*, in «Genus», 35, 3-4, 1979./Anelli A., Soliani L., e Zanni R., *Aspetti della dinamica della struttura familiare*, in *Atti del secondo congresso nazionale della Società Italiana di ecologia*, 1985./Angeli A., *Strutture familiari nella pianura e nella montagna bolognese a metà dell' 800*, in «Statistica», 1983. *Strutture familiari e nazionalità nel bolognese a metà dell'Ottocento*, Sides, Bologna, 1990 (¶16)./Da Molin, *La famiglia nel passato*, Bari, 1990./Della Pina M., *Gli insediamenti e la popolazione*, in *Prato, storia di una città*, vol. II, *Un microcosmo in movimento*(1419-1815), a cura di E. Fasano

- Giariani, 1985. *Famiglia mezzadrile e celibato*, in Sides, 1990. (註16)/Doveri A., *Famiglia nucleare e famiglia multinucleare*, in «Genus», 1982. «*Padre che ha figliuoli grandi fuor li mandì*», relazione al Convegno Sides, Torino, 1987. *Sposi e famiglie nelle campagne pisane di fine '800*, in Sides, 1990, (註16). *Territorio, popolazione e forme di organizzazione domestica nella provincia pisana alla metà dell' Ottocento*, Firenze, 1990./Menzione A., *Composizione delle famiglie e matrimonio in diversi gruppi contadini nella Toscana del secolo XVII*, in Sides, 1990 (註16)/Samoggia A., *Ricerche sulle tipologie familiari in base al casato onciario*, Comunicazione presentata al Convegno di Trieste su Strutture e rapporti familiari in epoca moderna, 1983./Schiavoni C., *Le strutture familiari della parrocchia di S. Lorenzo in Damasco di Roma nel XVIII secolo*, in «Genus», 1984./Tittarelli L., *La struttura della famiglia urbana e rurale a Perugia nei secoli XVIII e XIX*, in «Quaderni dell'Istituto di Statistica dell'Università degli Studi di Perugia» n. 9, 1984
- (13) Anatra, Assante, Schiavoni, Somnio.
- (14) Cipolla, Demarco, Fasano Guarini, Levi, Villani.
- (15) Cisp, Le fonti della demografia storica in Italia, Roma, 1971-1972.

- (19) Sides, *Popolazione società e ambiente*, Bologna, 1990.
- (20) Goldthwaite R. A., *Private Wealth in Renaissance Florence. A Study of Four Families*, Princeton, 1968./Hertily D., *Marriage at Pistoia in the fifteenth century*, in «Bullettino storico pistoiese» 1972. *Mapping Households in Medieval Italy*, in «The Catholic Historical Review», 1972./Hertily D. e Klapisch-Zuber C., *Les Toscans et leurs familles : une étude du casato florentin de 1427*, Paris, 1978./Kent. D., *Household and Lineage in Renaissance Florence*, Princeton, 1977./Kishner J., *Pursing Honor While Avoiding Sin : the Monte delle Doti of Florence*, in «Quaderni di studi senesi», 1977./Kishner J. e Molho A., *The Dowry Fund and the Marriage Market in early Quattrocento Florence*, in «Journal of Modern History», 1978./Klapisch-Zuber C., *Women Family and Ritual Renaissance*, Chicago e London, 1985.
- (21) Delille G., *Famille et propriété dans le Royaume de Naples (XV-XIX siècles)*, Roma-Paris, 1985.
- (22) Hunecke V., *I trovarelli di Milano*, Bologna, 1989.
- (23) Douglass W. A., *The South Italian Family*, in «Journal of Family History», 1980. *The Joint Family Household in Eighteenth-Century South Italian Society*, in *The Family in Italy from Antiquity to the Present*, a cura

di D. Kertzer e R. Saller, New Haven, 1991./Galt A., *Marital Property in an Apulian Town during the Eighteenth and Nineteenth Centuries*, in ibidem./Kertzer D. I., *Family Life in Central Italy 1880-1910*, New Brunswick, 1984.

- (21) Arru A., *Il matrimonio tardivo dei servi e delle serve*, in «Quaderni storici» 68, 1988./Cavallo S. e Cerutti S., *Onore femminile e controllo sociale della riproduzione in Piemonte tra Seicento e Settecento*, in «Quaderni storici» 44, 1980./Ciannitti L., *Quanto costa essere normali*, in «Quaderni storici» 44, 1983./D'Amelia M., *Scalole cinesi. Vedove e donne sole in una società d'ancien régime*, in «Memoria» 18, 1986. *Figli*, in *La famiglia italiana dall'Ottocento a oggi*, a cura di P. Melograni, Bari, 1988./De Giorgio M., *Buone maniere in famiglia*, in ibidem./Scaraffia L., *Essere uomo essere donne*, in ibidem./Fiume G. (a cura di), *Onore e storia nelle società mediterranee*, Palermo, 1989./Pelaja M., *Mestieri femminili e luoghi comuni*, in «Quaderni Storici» 68, 1988./Ferrante L. e Palazzi M. e Pomata G., *Ragnatele di rapporti, «Patronage» e reti di relazione nella storia delle donne*, Torino, 1988.
- (22) Levi G., *Famiglie contadine nella Liguria del Settecento* in «Miscellanea storica ligure», 1973. *L'eredità*

*immateriale. Carriera di un esorcista nel Piemonte del Seicento*, Torino, 1985. Macy, P., *Ottocento. Famiglia, élites e patrimoni a Napoli*, Torino, 1988./Morassi P., *Strutture familiari in un comune dell'Italia settentrionale alla fine del secolo XIX*, in «Genus», 1979./Poni C., *Fossi e capedagne benedicono le campagne*, Bologna, 1982.

- (23) Barbagli M. ed., *Famiglia e mutamento sociale*, Bologna, 1977./Manoukian A. (a cura di), *Famiglia e matrimonio nel capitalismo maturo*, Bologna, 1974. (a cura di) *I vincoli familiari in Italia*, Bologna, 1983./Saraceno C., *Avantonia della famiglia*, Bari, 1976.
- (24) Barbagli M., *Sotto lo stesso tetto*, Bologna, 1981./Oppo A. (a cura di), *Famiglia e matrimonio nella società sarda tradizionale*, Cagliari, 1991./Saraceno C., *La famiglia operata sotto il fascismo*, in «Annali Feltrinelli», 1979-80.
- (25) Coale A. J. e Watkins S. C. (a cura di), *The decline of fertility in Europe*, Princeton, 1986.
- (26) Notestein F., *Economic problems of population change, in Proceedings of the eight international conference of agricultural economists*, London, 1953.
- (27) Livi Bacci, M., *A Century of Portuguese Fertility*,

- Princeton, 1971. *A History of Italian Fertility during the Last Two Centuries*, Princeton, 1977.
- (88) Scheneider J. e Scheneider P., *Demographic Transition in a Sicilian Rural Town*, in «Journal of Family History», 1984./Lesthaeghe R., *On the Social Control of the Reproduction*, in «Population and Development Review», 1980./Lesthaeghe R. e Surkyn J., *Cultural Dynamics and Economic Theories of Fertility Change*, in «Population and Development Review», 1988./Livi Bacci M. e Breschi M., *La fecondità in Storia della famiglia italiana 1750-1950*, cit., (註9).
- (89) Kertzer, D. I. e Hoggan D. P., *Reflections on the European Marriage Pattern*, in «Journal of Family History», 1991.
- (90) Greenhalgh S., *Toward a Political Economy of Fertility* in «Population and Development Review», 1990.
- (91) Palazzi M., *Solitudini femminili e paritività», in Storia della famiglia italiana 1750-1950*, cit., (註9).
- (92) Laslett P., *Introduction*, in *Household and Family in the Past Time*, a cura di P. Laslett e R. Wall, Cambridge, 1972.
- (93) Laslett P., *Family and Household as Work Group and Kin Group*, in *Family Forms in Historic Europe*, a cura di R. Wall, J. Robin e P. Laslett, Cambridge, 1983.
- (94) Torti C., *Struttura e caratteri della famiglia contadina: Cascina 1841*, in *Contadini e proprietari nella Toscana moderna*, a cura di G. Cherubin, Firenze, 1981./Doveri A., cit., 1982. 1990, (註12)./Angeli A., cit., 1983 (註12)./Barbagli M., cit., 1984, (註24)./Kertzer D. I., cit., 1984, (註20)./Kertzer D. I. e Brettel C., *Recenti sviluppi nella storia della famiglia italiana e iberica*, in «Rassegna italiana di sociologia», 1987.
- (95) Viazzo P. P. e Albera D., *La famiglia contadina nell'Italia selentrionale. 1750-1930*, in *Storia della famiglia italiana 1750-1950*, cit., (註9)./Oppo A., «Dove non c'è donna non c'è casa»: *lineamenti della famiglia agropastorale in Sardegna*, in *ibidem*./Ramella F., *Rabbriaca e società nell'Italia dell'800*, in «Classe», 1977. *Terra e lei. Sistemi di parentela e manifattura nel Biellese dell'Ottocento*, Torino, 1983./Mabilia M., *Struttura familiare e uso del soprannome in una comunità dell'alto padovano*, in «Rassegna Italiana di sociologia», 1980./Sella D., *Household, Land tenure, and Occupation in North Italy in the late Sixteenth Century*, in «Journal of European Economic History», 16, 1987.
- (96) Da Molin G., *Struttura della famiglia e personale di servizio nell'Italia meridionale*, in *Storia della famiglia*

*italiana 1750-1950*, cit., (註9).

- (註5) Lison-Tolosana C., *Invitation a la antropologia cultural de Espana*, La Curuna, 1977.
- (註6) Douglass W.A., *The Basque Stem Family Household*, in 《Journal of Family History》, 1988. *Iberian Family History*, in ibidem, 1988./Flaquer L., *Family, Residence and Industrialisation in Northern Catalonia*, in 《Sociologia Ruralis》, 1986./Comas d'Argemir D., *Household Family and Social Stratification*, in 《Journal of Family History》, 1988.
- (註7) Reber D., *Household and Family on the Castilian Meseta*, in 《Journal of Family History》, 1988./Carrion J. M.M., *Peasant Household Formation and Organization of Rural Labor in the Valley of Segura during the Nineteenth Century*, in 《Journal of family history》, 1988./Bastos C., *The Northeastern Algarve and the Southern Iberia Family Pattern*, in ibidem.
- (註8) Fauve-Chamoux A., *La fonctionnement de la famille-souche dans les baronnies des Pyrénées avant 1914*, in 《Annales de Démographie Historique》, 1987./Collomp A., *From Stem Family to Nuclear Family*, in 《Continuity and Change》, 1988./Fine A., *Les structures familiales*, in *Histoire de la population française*, vol. 3, a cura di J.

Dupaquier e altri, Paris, 1988./Lebrun F., *Le structures familiales en France aux XVII e et XVIII e siècles*, in *Histoire de la population française*, vol. II, Paris, 1988.

- (註9) Shaffer J., *Family and Farm : Agrarian Change and Household Organization in the Loire Valley, 1500-1900*, Albany, 1982./Darrow M.H., *Revolution in the House*, Princeton, 1989.
- (註10) Czup P., *Marriage and the Peasant Joint Family in the Era of Serfdom*, in *The family in Imperial Russia*, a cura di D. Ransel, 1978. *The Perennial Multiple Family Household*, Mishino, Roussia, in 《Journal of Family History》, 1982. *A Large Family : the Peasant's Greatest Wealth*, in *Family Forms in Historic Europe*, cit., 1983, (註33).
- (註11) Plakans A., *The Family Context of Early Childhood in Baltic Serf Society*, in ibidem, 1983 (註33).
- (註12) Palli H., *Estonian Households in the Seventeenth and Eighteenth Centuries*, in ibidem, 1983 (註33).
- (註13) Andorka R. e Farago T., *Preindustrial Household Structure in Hungary*, in ibidem, 1983./Andorka e Balazas-Kovacs S., *The Social Demography of Hungarian Villages in the Eighteenth and Nineteenth Centuries*, in 《Journal of Family History》, 1986.

- (47) Gillis J., *For Better, for Worse. British Marriage, 1600 to the Present*, Oxford, 1985./Stone L., *Road to Divorce. England 1530-1987*, Oxford, 1990.
- (47) Phillips R., *Putting Asunder. A History of Divorce in Western Society*, Cambridge, 1985./Stone L., cit., (註46).
- (48) Hajnal J., *European Marriage Patterns in Perspective*, in *Population in History*, a cura di D.V. Glass e D.E.C. Eversley, London, 1965. *Two Kinds of Preindustrial Household Formation System*, in *Family Forms in Historic Europe*, cit., 1983, (註33).
- (49) Rowland R., *Nuptialidade, familia, mediterraneo*, in «Bollettino di demografia storica», 1987.
- (50) Oppo A., cit., 1992, (註34)
- (51) Retaroli R., *L'età al matrimonio*, in *Storia della famiglia italiana 1750-1950*, cit., 1992, (註9).
- (52) 一七' 一八世紀のトスカーナ地方では、一五〜一九歳の男性の約四割が奉公をしようとした。Doveri A., cit., 1987, (註12)。奉公に關しては、他の事例を參照せよ。Arru A., *Servi e serve*, in *Storia della famiglia italiana 1750-1950*, cit., (註9)。
- (53) Barbagli M., *Sistemi di formazione della famiglia in Italia*, in «Bollettino di demografia storica», 1987.
- (54) Levi G., *Famiglia e parentela*, in *Storia della famiglia italiana 1750-1950*, cit., (註9)。
- (55) Merzario R., *Terra, parentela e matrimoni consanguinei in Italia (secoli XV-XIX)*, in ibidem. Palazzi M., *Solitudini femminili e patrieggiaggio*, in ibidem.
- (56) Stone L., *The Family, Sex and Marriage in England 1500-1800*, London, 1977.
- (57) Barbagli M., *I genitori di lei e quelli di lui. Un'indagine in Emilia-Romagna*, in «Polis», 1991./La Mendola S., *I rapporti di parentela in Veneto*, in «Polis», 1991./Oppo A., *Madri, figlie e sorelle: solidarietà parentali in Sardegna*, in «Polis», 1991.
- (58) Sweetser D., *The Effect of Industrialisation on Inter-generational Solidarity*, in «Rural Sociology», 1966.
- (59) Barbagli M., *Linee di parentela*, in «Polis», 1991.
- (60) Wrightson K., *Kinship in an English Village*, in *Land, Kinship and life-cycle*, a cura di R. Smith, Cambridge, 1981.
- (61) Berkner L., *The Stem Family and the Development Cycle of the Peasant Household: An Eighteenth-Century Austrian example*, in «American Historical Review», 1972. *The Use and Misuse of Census Data for the Historical Analysis of Family Structure*, in «Journal of Interdisciplinary History», 1975.
- (62) Kertzer D. I., *A Life Course Approach to Coreidence*,

- in *Family Relations in Life Course Perspective*, a cura di D. Kertzer, Connecticut, 1986./Saraceno C.(a cura di), *Era e corso della vita*, Bologna, 1986.
- (33) Levv M., *Aspects of the Analysis of Family Structure*, Princeton, 1965.
- (34) Ruggles S., *Prolonged Connections*, Wisconsin, 1987. *Family Demography and Family History*, in 《Historical Methods》, 1990.
- (35) Kertzer D., *The Joint Family Revisited*, in 《Journal of Family History》, 1989.
- (36) Bretell C., *Men who Migrate, Women who Wait*, Princeton, 1986.
- (37) Mendels F., *Protoindustrialization*, in 《Journal of Economic History》, 1972./Medick H., 1981/Levine D., *Family Formation in an Age of Nascent Capitalism*, New York, 1977.
- (38) Knodel J., *Demographic Behavior in the Past*, Cambridge, 1988.

(甲子園短期大学・教育学・教育史)